第九講 「接続助詞」／「て」の識別／「副助詞」／「し」の識別

接続助詞（ば・とも・ど・ども・て・で・つつ・に・を・ながら・ものの・ものから・ものゆゑ・ものを・が・して）

★「ば」の用法＝「　　接」

○「　　」形＋ば＝　　条件
（　　〜　　）

○「　　」形＋ば＝　　条件
原因・理由＝（　　・　　）
偶然＝（　　・　　）
恒常＝（　　）

問一　「あればこそ」の文法的説明として適当なものを、次のうちから一つ選べ。

イ　動詞「あり」の未然形＋逆接確定を表す接続助詞「ば」＋詠嘆の間投助詞「こそ」
ロ　動詞「あり」の未然形＋順接仮定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の係助詞「こそ」
ハ　動詞「あり」の已然形＋順接仮定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の係助詞「こそ」
ニ　動詞「あり」の已然形＋順接確定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の係助詞「こそ」
ホ　動詞「あり」の未然形＋順接確定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の副助詞「こそ」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　傍線部「ば」と意味用法が同じものを次の中から選べ。

大江山いくのの道の遠ければまだふみも見ず天の橋立

ア　柿食へば鐘が鳴るなり法隆寺
イ　いと幼ければ籠に入れて養ふ
ウ　そのこと果てなばとく帰るべし
エ　名をばさぬきのみやつことなむ言ひける
オ　花咲かばうれしからまし

★「とも」の用法＝「　　接」

「　　」形＋とも＝　　条件
（　　〜　　）

★「ど・ども」の用法＝「　　接」

「　　」形＋ど・ども＝　　条件

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　「尋ぬともあらじ」の文法的説明として、最も適切なものを次の中から選べ。

1　ナ行下二段活用動詞の終止形＋順接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の連用形＋過去推量の助動詞の終止形
2　ナ行下二段活用動詞の終止形＋逆接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の連用形＋打消意志の助動詞の終止形
3　ナ行下二段活用動詞の終止形＋逆接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の未然形＋打消推量の助動詞の終止形
4　ナ行下二段活用動詞の連体形＋順接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の未然形＋禁止の助動詞の終止形
5　ナ行下二段活用動詞の連体形＋逆接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の連用形＋打消当然の助動詞の終止形

問四　次の二重空欄Ａ・Ｂには接続助詞が入る。Ａ・Ｂをうめる組合せとして最も適当なものを、後の中から一つ選べ。

「大弐(だいに)の居所ははるかなれ[Ａ]、楼の上の瓦などの、心にもあらず御覧じやられけるに、またいと近く観音寺といふ寺のありけれ[Ｂ]、鐘の声を聞こしめして、…」

1　ども・ば
2　ば・ども
3　ども・とも
4　ば・とも
5　とも・ば

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「て」の用法＝単純接続

「　　」形＋て

★「で」の用法＝「　　　　」接続

「　　」形＋で
（～　　　　　）

問五　「見せで」の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　見せて
イ　見せられて
ウ　見えず
エ　見せないで
オ　見えて

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「つつ」の用法＝①反復（～ては）②継続（～し続けて）

「　　」形＋つつ

問六　「物入れつ、参らするを」の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

イ　何か物を入れては差し上げていますのに
ロ　何か物を入れて召し上がっていますのに
ハ　何か物を入れながら参上なさいますのに
ニ　何か物をお入れしながら伺わせますのに
ホ　何か物をお入れ申し上げなさいますのに

★「に」・「を」の用法＝①順接（～ので・から）②逆接（～のに・けれど）③単純接続（～ところ・と）

「　　」形＋に・を

★「ながら」の用法＝①逆接（**～のに**）②同時（**～ながら**）③**そのまま**　④**全部、～中**

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔例題一〕　次の傍線部の訳を、後の選択肢の中から選べ。

① 身はいやしながら、母なむ宮（＝皇族）なりける。

② すべて折につけつつ一年ながらをかし。

③ 涙にむせびながら申すやう…

④ 「こなたに入り給へ」と、御簾の内ながらのたまふ。

ア　〜のに　　イ　〜ながら　　ウ　〜のまま　　エ　全部、〜中

★もの系〔＝ものの・ものから・ものゆゑ・ものを〕＝「　　接」

「　　」形＋もの系

＊「ものの」以外は順接の働きもある。

＊「ものを」＝文末にあれば、詠嘆の終助詞として「〜**のになあ**」と訳す。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「て」の識別

【識別対象】
1　接続助詞「て」
2　完了の助動詞「つ」の「　　　」形か「　　　」形

〈見分け方〉＝「　　　」に「　　　」**が有るか無いか**を確認。
（＊上〔＝接続〕はどちらも連用形）

1　「　　　」＝接続助詞「て」
2　「　　　」＝完了の助動詞「つ」
※例外　「**てば**」「**てばや**」の「**て**」は「　　　」

問七　「御覧じてけり。」の品詞構成の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1　動詞＋助動詞＋助動詞
2　動詞＋助動詞＋助詞
3　動詞＋助詞＋助動詞
4　名詞＋動詞＋助動詞＋助動詞
5　名詞＋動詞＋助詞＋助動詞
6　名詞＋動詞＋助動詞＋助詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

副助詞（だに・すら・さへ・し・のみ・ばかり・など・まで）

★「だに・すら・さへ」の用法

副助詞	用法
※だに	類推（〜　　　）
すら	類推（〜　　　）
さへ	添加（〜　　　）

★「類推」の構文

[A]　（サエ）**だに**／**すら**　[B]

「　　（　　　　）」

[C]　はなおさら　[　　　]

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

※**「だに」**には**限定用法**（＝　　　　〜　　　　）もある。

〈「だに」の意味の見分け方〉＝「　　　　」を見る。

限定用法 → **だに**＋〜「　　　　」・「　　　　」・「　　　　」・「　　　　」

問八　「跡をだに形見に見むと思ひしを…」の傍線部の説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

Ａ　屋敷の様子だけでも見て、資盛をしのぶよすがとしようということ。
Ｂ　屋敷の様子を見て、ある聖の手に渡ってしまったことを実感したこと。
Ｃ　屋敷の様子を見て、資盛と別れたときのことを思い出したということ。
Ｄ　屋敷を訪れて、資盛がまだ生きているような気がしていること。
Ｅ　屋敷を訪れて、ある聖の手に渡ったときのことを思い出したこと。

★「し」の用法＝「　　　　」

①「**し**　　　　」・「**し**　　　　」
②「Ａ**し**Ｂば」
③「Ｖと**し**Ｖ」　※同じＶ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「し」の識別

【識別対象】

1　サ変動詞「　　」の「　　　　」形
2　過去の助動詞「　　」の「　　　　」形
3　「　　　」の副助詞「し」

〈見分け方〉

1　「　　　」と訳せる＝サ変動詞
2　「　　　」形＋**し**＝過去の助動詞「き」
3　「し」を省いても文意が通じる。＝副助詞　※副助詞「し」の用法①〜③参照。

問九　「日ごろより聞きおよびしゆゑに、…」の傍線部と文法的に同じものはどれか。次の中から一つ選べ。

イ　そのむくいをほどこしたまふなり。
ロ　外の事を聞き入れずして、…
ハ　成人してのちに、はたして令尹といふ官人になれり。
ニ　駿馬をうしなはれし時、…
ホ　照名とてあきらかなる名があらはれて、天下にかくれなし。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第九講　「接続助詞」／「て」の識別／「副助詞」／「し」の識別

① 次のア～オに含まれる「ば」の中で、他と異なる用法のものを一つ選べ。

ア　のたまはすれば　　イ　明けぬれば　　ウ　近ければ　　エ　あらば　　オ　聞こゆれば

② 「ものも言ふで帰りぬ。」の「言ふ」の活用形として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　言は　　イ　言ひ　　ウ　言ふ　　エ　言へ

③ 「見てけりとだに知られんとおもひて書きつく。」の傍線部の解釈として最も適切なものを一つ選べ。

ア　私が見たのかどうかと不安を感じさせよう
イ　私が見たことを知らせて後悔させよう
ウ　私がたしかに見たことだけは悟らせよう
エ　私が見たかもしれないと思わせておこう

④ 「生き給ひたりし時、…」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　接続助詞の一部　　イ　副助詞　　ウ　過去の助動詞「き」の連体形
エ　形容詞の活用語尾の一部　　オ　サ行変格活用動詞の連用形　　カ　サ行四段活用動詞の連用形活用語尾

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講　模範解答

〔例題一〕　①ア　②エ　③イ　④ウ

問一　ニ

問二　イ

問三　3

問四　1

問五　エ

問六　イ

問七　1

問八　A

問九　ニ（イは動詞「施す（ほどこ）」の連用形「ほどこし」の一部、ロは格助詞「して」の一部、ハは副詞「はたして」の一部、ホは形容詞「なし」の一部。）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第九講　「接続助詞」／「て」の識別／「副助詞」／「し」の識別

〈解説〉

① エのみ**上**が**未然形**で**仮定**条件。他は全て**上**が**已然形**で**確定**条件。よって、正解はエ。

② **活用形＝下**を確認＝「で」。「**で**」は**未然形**接続。「言ふ」（＝ハ行四段活用）の未然形は「言は」。よって、正解はア。

③ 副助詞「だに」があるので、**下を確認**すると「**ん**」＝「**む**」の助動詞があり、「**と**」**の上の**「**む**」なので「**意志**」の可能性が高い。したがって、この「だに」は「**限定用法**」。よって、「～だけは」となっているウが正解。ちなみに、「だに」のもう一つの用法「類推＝さえ」で訳している選択肢はないので、消去法で考えても「だに」の訳がきちんと訳出されているものはウしかない。

④ 「し」の**上が連用形**。さらに**下が体言**。したがって、この「し」は**過去**の助動詞の「き」の**連体形**。よって、正解はウ。

〈解答〉

①　エ　②　ア　③　ウ　④　ウ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。